

ごあいさつ



皆さまには、平素より私ども足利小山信用金庫に対しまして格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

本年も当金庫の経営方針や事業内容、業績等へのご理解を一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌『足利小山信用金庫の現況2019』を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸甚に存じます。

平成30年度のわが国経済は、昨年夏に台風や地震による大規模な自然災害が相次いだことから、個人消費や輸出を中心に経済が一時的に押し下げられましたが、後半は、好調な企業収益を背景にした雇用・所得環境が消費を支え、設備投資も底堅く推移したことにより、景気は緩やかな回復基調が続きました。

しかしながら、米中貿易摩擦問題の激化や英国の合意なきEUの離脱等、世界経済の先行きに対する不透明感が高まっている状況であります。

一方、金融業界においては、昨年9月に金融庁より発表された金融行政方針では、地域において十分な金融仲介機能を発揮しながら、将来にわたって健全性を確保するとともに、経営陣の明確な経営理念、的確な現状分析による適切な経営・ガバナンスの発揮が求められています。

このような経済・金融環境の中、当金庫は期初に掲げた基本方針の実現に向け、意欲的に取り組んでまいりました。

今後の経営環境を展望いたしますと、本年10月に予定されている消費税率の引き上げの影響が懸念されるものの、オリンピック関連需要や自然災害を受けた公共投資の支出拡大、政府による各種政策の効果も相まって、雇用・所得環境の改善が続き、内需を中心に景気は緩やかに回復していくことが見込まれます。しかしながら、地域経済においては、しっかりとした景気回復を実感するには至らない状況が続くものと思われます。

このような状況に的確に対処するため、中期経営計画の2年目にあたる2019年度は、「地域やお客さまの課題解決に真摯に向き合い、価値ある提案ときめ細かな支援による『非価格競争力』をさらに強化し、円滑な資金供給を行うことによって、貸出金利の適正なプライシングと役務収益の拡大に努めるとともに、業務の効率化や業界ネットワークの更なる活用による経営の効率化を進めることにより収益性を向上させ、“将来にわたり持続可能なビジネスモデル”の構築に取り組んでいく」ことを基本方針として、中小企業の健全な発展、地域住民の生活向上および地域社会の繁栄に貢献してまいり所存でございます。

今後とも、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

理事長

富田 隆